

H30. 7. 9 教育・子育て部会 議事概要

※枠内は委員意見、枠外は区役所職員

日時場所 平成 30 年 7 月 9 日(月)午後 7 時～9 時 東淀川区役所 3 階 304 会議室
出席者 教育・子育て部会委員 7 名、府議会議員 1 名

議題 1 平成29年度東淀川区運営方針自己評価

- ・送付資料 2・3 に基づき説明

議題 2 今後の取組みの方向性について

- ・送付資料 4・5・6 に基づき説明

ワークショップ

- ・「29 年度運営方針自己評価に基づいた課題について」
- ・「今後の取組みの方向性」

(29年度自己評価に基づいた課題について)

- 4・5 歳児就学前子育て支援事業について、虐待ケース等も増えているので、対象である 4・5 歳児だけではなく、他の年代にも積極的に関わりを増やしていくべきだ。
- こんにちは赤ちゃん訪問事業について、区民ニーズがさらに高まっているので今後も続けていくことが必要である。
- 絵本の読み聞かせ事業、ゲストティーチャー派遣事業、体験型食育推進事業など、今までの取組みが繋がって少しずつ発展していったのがよい。
- 子どもの居場所について、実施主体ごとに内容や回数などには違いがあるものの、広がりが出てきているので、地域でさらに広がり根付いたらよい。
- 中学生勉強会で中学生・高校生・大学生がお互いに関わることで、子どもの自尊心が高まるのではないか。

(今後の取組みの方向性について)

- 定期的に地域でそれぞれの地域の特徴に合ったコミュニティづくりのアイデア（例えば地域における図書館・自習室・食堂などの機能）を出していくことが大事。
- 大桐地域の「だいどうさん」キャラクターのように、地域のシンボリックなものを作って活用することにより、子どもたちの地域への愛着心が深まり、地域がまとまり活性化し、助け合い・思いやり・子どもの自己肯定感につながるのではないか。
- 要保護児童との関わりや非行の防止など、課題のある子どもたちと関わっていけるような事業がもっとある方がいい。
- 地域の中で子どもの居場所づくりをどう広げていくか、また行政がどのようにサポートしていくかということが今後の課題。
- 地域の会議に P T A が参加する、学校行事に地域の方に来てもらうなど、一部の地域では既に行われていることを、他の地域と意見交換・情報共有できるような場所があればいい。

- ・地域保健福祉計画に記載しているように公助には限界があり、自助・共助が今後求められてくる。
- ・事業について横の連携を密にして、地域がひとつに、東淀川区がひとつになるような仕組みを作っていきたい。

(議員からの助言)

- ・こんにちは赤ちゃん訪問事業は、出産後の親の孤立化という問題に対しての東淀川区が誇るべき事業であり、対象を4・5歳まで連続するとさらに価値が高い事業になる。
- ・今後は、「人とのちがいを認め合い、それぞれの子どもの特性に合わせて能力を押し上げる教育が重要であり、それが人間力の向上に繋がる。地域もそれぞれの特性に合った活動をしていくことが、地域力の向上に繋がる。